

第1回丸瀬布地域まちづくり会議議事録

日時	令和2年2月20日（木）18：30～20：20	
場所	丸瀬布コミュニティセンター多目的ホール	
出席者	鈴木会長、谷口副会長、刀川委員、関委員、柴田委員、佐竹委員 遠軽町総務部企画課 佐藤課長、中原主幹、丸瀬布総合支所 会津支所長	
欠席者	塘委員、國枝委員	
次第	発言者	発言要旨
1 開会	企画課	只今より令和元年度第1回丸瀬布地域まちづくり会議を開始する。本日は8名の委員中、堤委員、國枝委員を除く6名の出席となる。
2 会長、副会長選任	企画課	次第2、会長及び副会長の互選について協議をお願いする。 2月3日の全体会議においては、過半数に満たない4名の出席ということで、会議が成立しなかったため、本日に決定が持ち越ししている状況。全体会議では仮として、会長に鈴木幹夫委員、副会長に谷口寿康委員となったが、いかがか。 (承認) 以下の議事進行は会長にお願いする。
3 企画課 話題提供	委員	企画課 中原主幹から話題提供をお願いする。
	企画課	別添資料に基づき話題提供
	委員	今、役場からお話があったが、テーマ的に大きいと思う。わからないことがあれば、質問等出していただきたい。
4 意見交換	委員	わからないことだらけ。お金がなくてあちこち直せないとか。町にお金が入ってくるのが、観光施設ぐらいしかイメージが浮かばない。町を豊かにするということが、人口も減ってしまう、商店街もなくなってしまう中で、どうやったら豊かになれるのか想像がつかない。若者がチャレンジして活性化させなさいといっても、若者も少ない。職場がなければ、若者も出て行ってしまう。なかなか答えを見出すことができない。ただ、このままだと町がさびれていってしまうので考えていかなければならない。
	委員	この地域では、丸瀬布地域中心のまちづくりという形で考えればいいのか。
	企画課	地域の会議なので、そこがスタートでいいと思うが、合併して15年ということで、1つの町の姿というのを考えていただきたい。
	委員	全体を考えた上での、丸瀬布地域に住む人がどうしていくかということか。
	企画課	そう。全体会議の中で町長も言っていたが、お互いの我慢も必要という部分もある。どれが全体で最適かということをお互いに考えてもらいたい。あとは、遠軽町の中で、丸瀬布地域にはこういう役割があるんじゃないか、というところから話を始

	<p>めていくのもいい。特に丸瀬布だといこいの森があって、それは遠軽町の中でも一番の資源になっている。これをどうやって生かしていくか、お客さんに来ていただくためには投資も必要だから、どういうところから（財源を）持ってくるか、お金を生み出すかということも合わせて考えていただければと思う。お客さんが来て、お金を落としてもらえるからこういう投資ができるんだということもある。</p>
委員	<p>遠軽のコスモス園のテレビコマーシャルをやっているが、いこいの森でもそういうものをやると、知らない人も来てくれるのではないかな。</p>
企画課	<p>PRが足りないという話は、去年の会議でもあった。ある程度お金がかかるので、その財源をどこから持ってくるかということも提言してもらいたい。</p>
委員	<p>去年、CMやテレビ番組のタイアップができて、結果がはっきり現れていた。常々言っているのだが、冬場に（SLを）走らせてほしいと思う。温泉を引っ張って線路を温めるとか、何億円かかかるかも知れないが、ペイできるのではないかな。オタクの力はかなり期待できる。昨年冬場に走らせたなら、すごい収益になった。</p> <p>ところで、ふるさと納税について今調べてみたが、紋別はすごい。オホーツクや北海道のくくりで遠軽ももっとやったらいい。</p>
企画課	<p>昨年7月から返礼品の規制が始まって、地域で加工などを行ったものに限られることになっている。</p>
委員	<p>なかなかこの地域にそういうものがない。商業も守るのも大変で、来客も少ないので、採算とは違うところの商業補助のようなものがもう少し必要と思う。店舗近代化の補助金をうちも利用させてもらって助かったが、3百万円以上の投資が要件になっている。けども、百万円ぐらいで何かしたいと考えている人がいても、補助が得られない。</p> <p>人口が少なくなる中で商業などを通じて豊かさと言っても、豊かにならないところが多くてどうにもならない。公共施設は減りますよ、でも地域は豊かにやってくださいと言われても、非常に厳しい。スクラップしてくださいと言われてたが、このメンバーで何かをスクラップというのは・・・。状況的にやめざるを得ないのは、行政の方から出してもらわないと。我々はお金のかからないものを積み上げて活気を持たせるというところだと思う。</p> <p>藤まつりもこのままでは・・・、という話が行政の方から上がってきた。この地域では、なんとか地域を知ってもらおうという中でやってきているもの。確かに財政的にはプラスになるものではないが、花が好きな人が丸瀬布に来てもらえるということで、地域の方はボランティアで協力している。都会の人にスタッフをボランティアで募るような運営の変化はあっていい。ここにいる人だけでは運営できない</p>

	<p>くなりつつあるイベントも増えてきている。そういう都会の人の力も借りながら、地域の魅力も発信できるしくみがあるといいのではないかな。スクラップ、スクラップというと、お金のかかるイベントはやめなさいと言われてるようにしか聞こえない。</p>
企画課	<p>昨年コスモスフェスタに 1 万人ぐらい来た。だが、収支を見ると赤字になっているのが現実。人を集めても赤字になる。どこに問題があるのかというと、儲かるしくみだとか、ボランティアによる運営だとか、そういうものを含めて皆さんにも知恵をお借りしたい。各地域のイベントにも波及させて赤にならずに継続させていけるようになるのではないかな。そういった役割も期待したい。</p>
委員	<p>例えば、コスモスフェスタに来た人に「丸瀬布に行きましたか？いこいの森があるんですよ。」といった声かけするようなことはしているのだろうか。そういったお互いに助け合うようなことをしていくべきではないだろうか。</p>
企画課	<p>そういうのも一つだし、各地域を回るようなコースを作って紹介するというのも考えられる。そういったアイデアを出していただき、じゃあ何が障害かといったことも含めてお話しいただきたい。</p>
委員	<p>何をやるかということ考えてということだが、財政を先に考えてしまうと話が出て来ないのではないかな。財政は財政で、あとからできる、できないは別個にして、今、まちづくりをするために何が必要か、お金かかるからこれはできない、あれはできないという、最初から押さえ付けるような議論に持っていくのではなくて、百に一つでも OK となっているように、アイデアが出ないことにはどうにもならない。財政のことはとりあえず置いて、何ができるのかを進めて行った方がいいと思うが。</p>
企画課	<p>先ほど「活気に満ち、ゆとりと豊かさが実感できる町はどんな町ですか」というところからスタートした方がいいと言ったのは、正にそのような意味。ただ一方で、イベントのスタッフ確保が厳しくなっているという話も、実は人口減少から来ているもので、確実にこれは進む。それを踏まえたものでないと、ただの夢物語になってしまう。でも、まずはアイデアをいっぱい出した上で、これだったらどうやって実現できるかという方向でやっていくのが私も一番いいと思う。</p>
委員	<p>ただ、単独の事業でそれで成り立つようにというのは考えにくい。</p>
企画課	<p>伸ばすところは伸ばす。一方で、別個の話として切れるところは切る。というように対で考えてもらいたい。まずは、伸ばすところから始めた方が話をしやすいと思う。</p>
委員	<p>やっぱり丸瀬布としては、いこいの森を持っているのが大きいと思う。地域の人た</p>

	ちは誇りに思っているので伸ばしてもらいたい。
委員	委員が言っていた、いこいの森の冬場の活用を方向性として考えていくのいいのではないか。この間、地域おこし協力隊が冬のキャンプをやったが、次の日、山彦の滝観察会にも参加した様子から満足していたように見えた。それなりに成果があったと思う。あれをいこいの森でやるという方向性もいいのではないか。
委員	昔、夏は観光まつりがある、冬は何やるんだという話になり、冬も何かお祭りをやったらいいのではないかと考えた。夏より長い冬なので、いこいの森でイベントをやるのはいいと思う。そこで問題になるのはスタッフ確保。ただ、やる価値はあると思う。冬に機関車を走らせて、あれはほとんど夢里塾が構成団体としてやっているが、オタクだけでなく口コミで「冬も走っているんだ」となると、一年中お客さんが来るようになる。お金が落ちるんじゃないか。
委員	ウインターキャンプのポスターは、誰が作ったのか？なぜこうしたのか趣旨を聞きたい。わざわざ「避難しろ」というようにしてあって、バカだなと思ったが、「世の中バカが多く、こういうのがバズる」という逆の発想だと思う。マイナス30度、40度を体験してもらおうというあり得ない体験をさせるのが面白い。こういうご時世なので、いいことばかりやるより、ここならではのヤバい体験をさせる。そういう逆の発想も必要。
委員	遠軽町として人を増やすことは絶対的にできない。後は、観光、来る人を増やす、長く居るといったことは、色んなことをやれば来る可能性がある。人の注目を集めるものを考えて行かなければならない。
委員	地域おこし協力隊がいこいの森でヨガをやりたいと言っていた。それも面白いなと思った。
企画課	ぜひ、協力隊もうまく使っていただきたい。地元の人との連携で可能性が広がると思う。
委員	武利川にプロジェクションマッピングをできないか。瞰望岩にも。そういう新しいことをやりたい。募れば学生などの協力が得られるのではないか。よそからの人材をうまく活用できるのでは。
委員	2番手でもいいから、知床のオーロラファンタジーの真似をしてもいいんじゃないかと思ったことがある。雪まつりや流氷まつりだって真似から始まっている。観光まつりも芸能人呼べばもっと人が来るという話もあったが、川があって、山があって、SLがあってということを生かして、試行錯誤してあそこまで大きくなった。夏はそれでいいけど冬は、というのでオーロラファンタジー。
企画課	冬のいこいの森の活用について、多くの賛同の声があったが、冬ならではの難しさ

		もあると思うので、次回までに調べてきたり、支所の職員や協力隊も来てもらって一緒に考えたりということもできる。
企画課		災害で滝のライトアップができなかった時に、馬そりをスノーモビルで引いて屋形船のように・・・という話もあった。結構そういう話は色々出ているが実現していないものが多い。やはり先立つものが・・・ということもあって。
支所長		雪中運行については、去年やっているのので、支所産業課で総括をしていると思う。産業課に聞けば、記録はされていると思う。SLファンにも手伝ってもらった。
委員		やり方は色々あると思う。手弁当でボランティアスタッフが結構集まる。スタッフでないと体験できないということもあるかも知れない。 佐竹さんから女性の目線でご意見はないか。食べ物など・・・白滝のじゃがりんピックはテレビに取り上げられて、PR効果があったところ。
委員		ふるさと納税で魅力的な返礼品で収入を確保して財政を豊かにしたらいいのかなと思った。
企画課		今はふるさと納税がカタログショッピングのようになっていて、魅力的なアイテムがあったら寄附が増える。
委員		遠軽は、アスパラ、白滝じゃが、コスモスカレー、チキンスープカレー、白揚社さんの缶詰、はちみつ、バスタオル、ホテル宿泊、木工品、乗馬体験、マイスターさんの商品など。丸瀬布のものが入っていない。
委員		できているモノより、自分で作りたいということもある。
企画課		モノ消費からコト消費にシフトしていると言われている。乗馬体験なども遠くから来てくれている。
委員		紋別は350種類ぐらいある。遠軽も200ぐらいに増やすといい。
各委員		返礼品の案として、体験型、いこいの森のすべらない砂、しいたけ原木、いこいの森薪、山彦の滝氷、かにめし、雨宮21号助手席乗車、車掌、制服などの発言が出る。
5まとめ	委員	色々アイデアが出たが、次回までに思い浮かんだら書き留めておいてほしい。次回だが、「冬場のいこいの森の活用」と「ふるさと納税」について考えてきてもらって、2点に絞って話をしていければ更に深まっていくと思う。その他でも気の付いた部分で挙げてもらいたい。その結果、「ゆとりと豊かさを実感できる町」に近づけていけるといいと思う。
	企画課	大体でいいので、「次回をこの時期に」というのを決めてもらえるといい。1~2回地域会議をやって、全体会議に報告という流れで考えている。全体会議はできれば12月ぐらいまでにやりたい。

	委員	夏はイベントなどあるので厳しい。あまり空くと、何を話したか忘れてしまうので、5~6月がいい。2回目もあるかもしれない。
	企画課	では、5月後半で調整をさせていただく。次回までに冬のいこいの森に関するのと、ふるさと納税に関する情報提供を準備しておく。
	委員	次回までに考えておいてもらいたい。
	企画課	その他として。全体会議において、総合計画後期基本計画について意見をいただいたが、それらの意見に対する町の考え方をまとめて資料としてお配りしている。総合計画については、3月の議会に提案するというところで進めている。ご検討いただきお礼申し上げます。
6 閉会	委員	これをもって第 1 回丸瀬布地域まちづくり会議を終了する。

20 : 20 頃終了